

IV 環境センターの現状とさらなる 環境学習都市に向けた取組み

1 もりやまエコパーク

(1) 環境センターの現状

エネルギーと資源の有効活用を積極的に推進し、

地球環境にやさしい持続可能な循環型社会を実現

～70トン級の小規模処理施設では全国最高水準 エネルギー回収率18.5%を達成～

令和3年10月に、「もりやまエコパーク 環境センター」が本格稼働しました。

新環境センターは、熱回収施設の1日の処理能力が71 tで、全国的にみれば小規模な施設ですが、ごみの焼却に伴って生じる熱を利用し高温高圧(400℃ 4 MPa)の蒸気タービンを回して発電を行っています。

また、発電で得られた電気は、施設全体の電気を賄い、余剰分は電力会社に売電し、タービン排熱は交流拠点施設の温水プールへ熱供給を行っています。

施設は最先端の技術を導入し、地域環境に最大限配慮した運営を行うとともに、熱エネルギーと資源の有効活用を積極的に推進し、地球環境にやさしい持続可能な循環社会を実現します。



担当：環境センター

(2) 環境センターにおけるごみ処理費用の削減

環境センターにおけるごみの処理費用（焼却、破碎、資源化）は、一般財源ベースで
1. 4億円の削減見込み(旧環境センター比較)

(単位：千円)

	支出額 (運営委託費など)	収入額 (搬入手数料・売電収入など)	支出額－収入額 (一般財源：主に税金)
旧環境センター ① 〔令和2年度 決算額〕	580,354	120,823	459,531
旧環境センター (4月～9月) 新環境センター (10月～3月) 〔令和3年度 決算見込額〕	543,288	154,407	388,881
新環境センター ② 〔令和4年度 当初予算額〕	493,210	177,532	315,678
増減額 (②－①) (旧環境センター比較)	▲ 87,144	+ 56,709	▲ 143,853

◎ 主な要因

- 支出 (減) ➡ DBO方式による発注（全体運営委託料の削減）、購入電力量の削減（発電の実施）、分別区分の変更に伴う削減（トレイ類の中間処理費）
- 収入 (増) ➡ 売電収入の増額（約59,000千円/年）

※環境センター稼働以降、順調に発電ができています。

担当：環境センター

(3) もりやまエコパーク 環境センターからの発信

令和3年10月に、「もりやまエコパーク 環境センター」が本格稼働しました。

本施設では、環境学習都市の実現を目指し、環境政策課と連携し多くの方々に施設見学をしていただいています。施設見学時には、「Think of Earth from Moriヤマ」をタイトルにごみの現状について学び、考え、未来の守山さらに地球を守るように行動へつなげてもらうような見学説明を進めています。また、ごみ排出状況の現状を展示し市内から排出されるごみの課題を知ってもらい、更なる分別を喚起しています。

【見学者状況】

延べ見学者数 36団体 1,700人
(1月末現在)

6小学校 1中学校 747人
2学区 17自治会 447人
10団体(企業等) 116人
もりやまエコフェスタ 390人



施設見学の様子



施設内の啓発展示物

担当：環境センター

(4) ごみ分別の徹底

令和3年10月1日より新たなごみの分別を開始しました。市民の皆さまや事業所には、新しいごみの分別にご協力いただいています。一部において不適切な分別により、「焼却ごみ」に金属類が混入したごみが排出されています。金属類、陶磁器、ガラス類、金属を含む複合品などは、破碎ごみとして適切に排出されるよう引き続き、周知・啓発を行います。



焼却ごみで排出された金属類

展開検査（内容物検査）の実施

市内から排出される事業系の一般廃棄物(ごみ)、ご家庭から排出される一般廃棄物(ごみ)が正しく分別されているか、展開検査を実施しています。

11月から強化しており、引き続き正しい分別の啓発を行います。



展開検査の様子

担当：ごみ減量推進課

(5) 環境センターから排出したばいじん処理物に係る大阪湾広域臨海環境整備センター（フェニックス）への搬出再開について

環境センターから排出された「ばいじん処理物（飛灰）」のダイオキシン類濃度が、大阪湾広域臨海環境整備センター（フェニックス）の受け入れ基準値を超過し、搬入が停止（令和3年10月26日付け）となった件につきまして、環境センターのDBO事業者である「(株)もりやまエコクリーン」と共に、ハード・ソフト両面の改善策を実施し、11月6日に焼却処理の運転を再開しました。

以降、11月中旬から約1ヵ月間、毎週調査分析を実施し、全ての調査結果がフェニックスの受入れ基準値を下回ったところでした。

これを踏まえ、12月末に改善報告書をフェニックスに提出し、1月上旬にフェニックスの立ち入り調査を受け、搬出再開に向けた承認審査を経るなか、令和4年1月25日付けでフェニックスから搬入停止解除の通知を受理し、2月上旬から搬出を再開しました。

今後、二度と同様の事案が生じないよう、監督責任を有する守山市として、「(株)もりやまエコクリーン」と連携し、運転監視体制を強化し、安全・安心な運転管理を徹底します。

(6) もりやまエコパーク公園施設の一部供用開始

令和4年4月1日に公園の一部が供用開始します。

①グラウンドゴルフ場

8ホール×2コース

②バラ園

約1,000本のバラ

バラサポーターを募集し、市民の
皆さまと一緒にバラを育てる

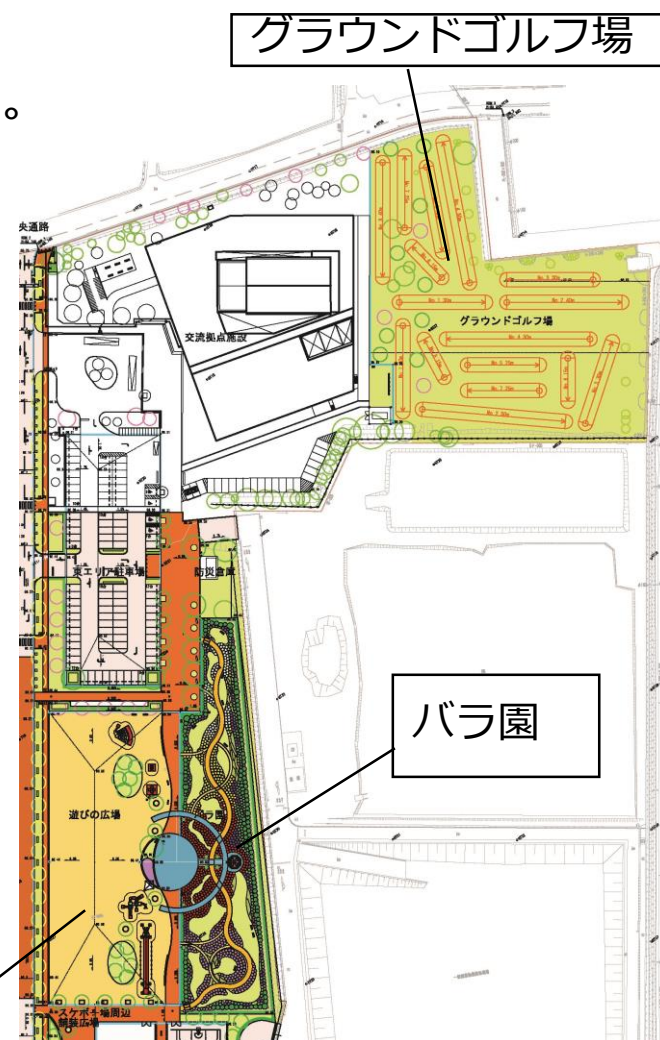
③遊びの広場

インクルーシブ遊具をはじめ、複数の遊具を
設置し、誰もが楽しめる公園

【参考】交流拠点施設の利用人数

約9万人（令和4年1月31日現在）

※利用想定人数 7万5千人



担当：ごみ減量推進課

2 環境学習

（１）もりやまエコパーク交流拠点施設における環境学習①

令和３年４月に、「もりやまエコパーク交流拠点施設」が開設しました。

本施設では、環境学習の拠点として、毎月、様々な環境学習を開催するとともに、広報やホームページに加え、SNSを活用し、市内外に情報を発信しています。

多くの方々に交流拠点施設で環境学習に参加いただくよう、市民や企業など有識者で構成された環境学習事業推進委員会との協議を行い、環境学習の推進を図っています。

【目 標】

市民が共に学び、考え、行動する「環境学習都市の実現」
(環境都市宣言の具現化)

【方 針】

- 1 環境センターの機能を活かした事業
- 2 環境学習による人と人のつながり強化
- 3 体験環境学習などを通じた環境に触れる機会の拡大
- 4 新たな情報媒体を活用した情報発信
- 5 30～40歳代、中高生などの環境学習参加促進



環境学習の様子



参加者からの感想

担当：環境政策課

(1) もりやまエコパーク交流拠点施設における環境学習②

令和3年度 環境学習事業（テーマ：地球環境）

日時	講演・体験教室名
4月	オープニングイベント（講演会、ごみからアート作り体験）
5月	草木染め体験教室、ミツロウラップづくり他
6月	大麦ストロー・ケースづくり、竹細工教室
7月	木工教室、陶芸教室、環境音楽コンサート他
8月	竹水鉄砲づくり、エコバッグづくり他
9月	陶芸教室
10月	ヨシを使ったヒンメリづくり
11月	もりやまエコフェスタ （eco実験パフォーマンス、講演会（南極から見た地球、マシンガンズ 滝沢氏と考えるごみ問題）、小中高生による環境学習発表 環境センター見学、スタンプラリー他
12月	エコキャンドルづくり
1月	野鳥観察会
2月	米袋を使ったエコバッグづくり
3月	野洲川を歩きながらSDGsを見つけるワークショップ



環境学習の様子（エコキャンドル、陶芸教室など）

・まちの話題発信事業
市内中高生により、環境学習を取材し、動画を配信する。

・30歳代～40歳代コミュニティ・ネットワーキング事業
農作業を通して、子育て世代の環境意識の向上を図る。

担当：環境政策課

(2) 小中高生への環境学習

本市の将来を担う子どもたちの環境意識の醸成を図るため、もりやまエコパーク交流拠点施設や学校・園での講習会・体験学習、環境センターと連携した環境学習に加え、本市の恵まれた自然環境を活かしたフィールドワークを取り入れています。

環境学習内容（一例）	学 校
新守山川での自然体験学習	市内こども園児
琵琶湖の恵みやごみ問題について	市内小学生
琵琶湖の素晴らしさや大切さについて	市内中学生
生物多様性について	市内高校生
環境センターと連携した環境学習 （環境センター施設見学、交流拠点施設での環境学習）	市内小中学生

※その他、市内の学校などへ環境学習を実施しています。

子どもたちの感想

- ・自分が少しでも行動することが必要であると思った。（高校生）
- ・たくさんの人が琵琶湖の水を使っているので大切にしなければならなかった。（小学生）
- ・川は魚のおうちだから、ごみをなくしてあげたい。（園児）など



環境学習の様子

担当：環境政策課